

心臓病、脳卒中、がん……

# 命にかかわる病気の場合一の「医療」の賢い活用術

「救急車→手術→転院」のケースで知っておくべきこと

緊急性があり、専門的な医療が必要な場合、たとえば、脳卒中による突然のしびれや激しい頭痛、心筋梗塞による胸痛、呼吸困難などの症状が表れたら、救急車を呼ぶことが必須です。

これらの緊急性が高い病気のリスクは加齢とともに高まります。いざというときのために「救急車を呼ぶべき事態」への備えが重要です。総務省消防庁のウェブサイトに「救急車利用リーフレット」があり、緊急時対応がひと目でわかってとても便利。プリントして居間の壁や電話の近くなどに貼っておくと良いでしょう。「ただし、脳卒中で入院した場合



などは、その後のリハビリが重要。救急車で運ばれ、治療がうまくいったからといって安心はできません。転院する病院選びが大切です」

（医療ライター・渡辺さん）  
転院先は、救急搬送された病院の地域医療連携室（名称はさまざま）でソーシャルワーカーなどに相談することができます。リハビリ病院（病棟）にもそれぞれ特徴があるので、病状に応じた施設を慎重に選ぶ必要があります。

「病院を探す際は、回復期リハビ

リテーション病棟協会のウェブサイトに掲載されている「より良い回復期リハ病棟を選ぶポイント」がひとつの参考になります」（渡辺さん）

「がんと診断されたら、がん情報サービス」をまずはチェック

日本人の死亡原因の第1位は、がんです。かつては不治の病といわれた「がん」ですが、国立がん研究センターの調査では、生存率は多くの部位で上昇しています。

がんと診断されたときに問題になるのは、どの医療機関で治療を受けるかということです。ひとつの目安になるのが、全国各地にある「がん診療連携拠点病院」。国が定めた要件を満たし、質の高いがん診療体制が整備されています。



「ただ、それぞれの拠点病院は、得意とするがん種（がんができた部位）が違うことなどが指摘されています。治療を受ける拠点病院を選ぶ際は、各病院の治療実績や専門医の状況などの情報を収集し、うえで、賢く選択したいものです」（渡辺さん）

国立がん研究センターが運営するウェブサイト「がん情報サービス」<sup>3</sup>では、がん種・病期（ステージ）別に拠点病院を検索することができます。治療件数、専門医数、専門看護師数などを比較することもできます。また、がんにかかったときに知っておきたい知識も数多く掲載されていて、おすすめで

総務省消防庁の「救急車利用リーフレット」。高齢者版・成人版・子供版の3種類が用意されている。

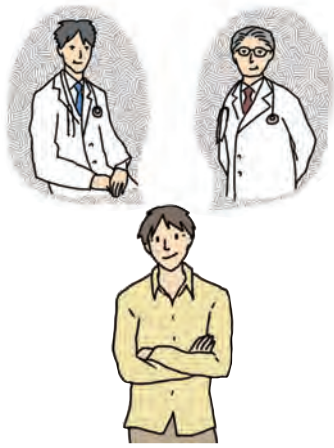
## 知っておきたい セカンドオピニオンの 本当のこと

病院が決まると、主治医から今後の治療方針（治療の選択肢）の説明を受けることになります。

前出の尾藤さんは、医師から患者への病状説明は「合意形成に向けた対話」であるべきだが、現実には「病気についての講義」になってしまふことが多いといいます。

「手術の際の医師の説明のうち、患者さんが手術を受けるかどうかを判断するうえで必要な情報は、2割くらいかもしれません」（尾藤医師）

では、治療法を決定するうえで足りない情報はどのように補えば良いのでしょうか。ひとつは、前ページでもお伝えしたように、私たちのほうから必要なコミュニケ



ーションを積極的に行い、治療に対する思いを伝え、その意を汲んでもらうことです。もうひとつは、がん診療連携拠点病院に設置が義務づけられている「がん相談支援センター」（病院によって名称が異なる）のスタッフに相談してみることです。あまり知られていないかもしれませんが、「がん看護専門看護師」と呼ばれるがん看護に特化した専門職がいて、頼りになります。

それでも主治医の治療方針に対して迷いがあるなら、セカンドオピニオン（主治医以外の医師に意見を求めること）を受ける方法があります。前述のスタッフに相談してみるとよいでしょう。

セカンドオピニオンを受けることになんとなく「うしろめたさ」を感じることもあるかもしれませんが、がんに関してはその心配はないと尾藤さんはいいます。がんを治療する医師はセカンドオピニオンには慣れているし、むしろ、ほかの医師の意見を聞くことが自身にとってプラスになると考えているでしょう。あらゆる医療資源を活用することが、がんに打ち勝つ賢い姿勢です。

## あふれる情報のなかから 有用な情報を 選ぶためには

病気で苦しんでいる人にとって、治療につながる情報は、まさに「どこから手が出るほど欲しいもの」ですが、インターネットの普及に伴って世にあふれる情報は、玉石混濁です。そんななかで信頼度をはかるポイントになるのは、その情報提供者が公的なものなのか、利益を追求する目的の私的なものなのか、です。

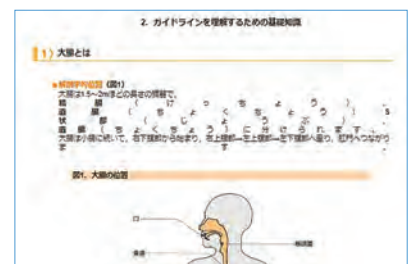
厚生労働省の委託事業で、公益財団法人日本医療機能評価機構が運営している「Mindsガイドラインライブラリ」というウェブサイトがあります。ここには、さまざまな病気や治療法に関する診療ガイドラインが公開されています。

診療ガイドラインとは、科学的根拠にもとづいて最適と考えられる治療法を提示した文書のことです。患者と医療者が治療法を決定する際の重要な判断材料となります。そのため、患者も自分の病気の診療ガイドラインには目を通してほしいものです。

Mindsには、一般の人にわかりやすいように、やさしい言葉で書かれた解説なども掲載されています。こうした情報は、病気になってからよりも「なる前」に蓄えておくべきものかもしれません。



Mindsのトップページ。「がん」「感染症」などのキーワードからも検索できる。



ガイドラインを理解するために必要な基礎知識なども掲載されている。

- \*1 総務省消防庁「救急車利用リーフレット」  
[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9\\_6/leaflet.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9_6/leaflet.html)
- \*2 回復期リハビリテーション病棟協会（当該ページ）  
<http://www.rehabili.jp/visitor.html>
- \*3 国立がん研究センター がん情報サービス  
<https://ganjoho.jp/public/index.html>
- \*4 Mindsガイドラインライブラリ  
<https://minds.cqhc.or.jp/>